第２　米穀の需給の見通しに関する事項

１　平成28／29年の需要実績

⑴　需要実績の対象期間及び対象米穀

米穀の需要実績については、前年７月から当年６月までの１年間について算出することとしています。

また、需要実績の算定の対象となる米穀は、国内で生産された水稲うるち米及び水稲もち米から、需要に応じた米生産の推進に関する要領（平成26年４月１日付け25生産第3578号農林水産省生産局長通知）第４において生産数量目標の外数として取り扱う米穀等として定める加工用米その他主食用に充当されない米穀を除いた米穀（以下「主食用米等」という。）としています。

⑵　算出方法

需要実績は、平成28年産主食用米等生産量、平成28年６月末民間在庫量及び平成29年６月末民間在庫量を基に算出します。

表１　平成28／29年の需要実績の算出方法

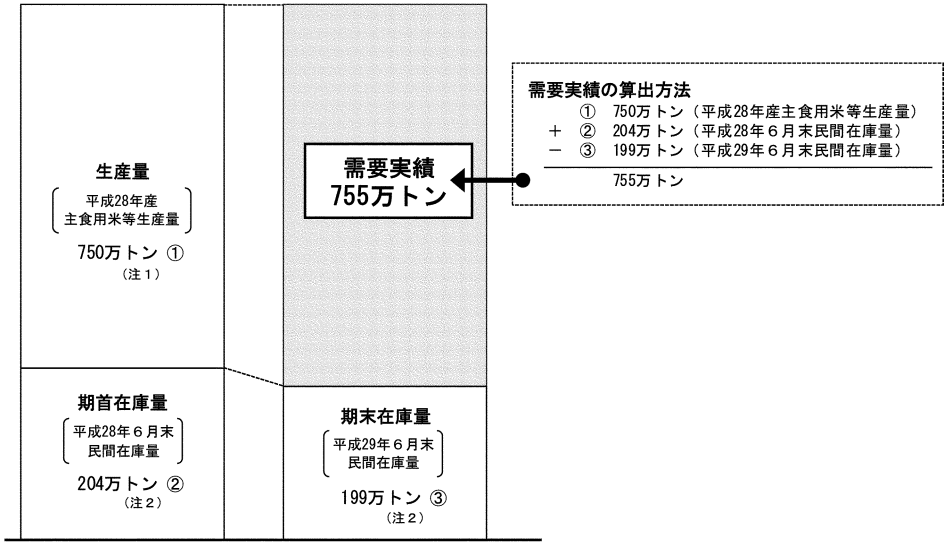
需要実績＝①＋②－③ ①　平成28年産主食用米等生産量 ②　平成28年６月末民間在庫量 ③　平成29年６月末民間在庫量

⑶　全国の需要実績（速報値）

前記方法により算出した平成28／29年（平成28年７月から平成29年６月までの１年間）の需要実績（速報値）は、図１のとおり755万トンとなります。

なお、平成28／29年の需要実績については、平成29年11月に変更する米穀の需給及び価格の安定に関する基本指針（以下「基本指針」という。）における確定値報告に向け、精査を行うこととします。

図１　平成27／28年の需要実績（速報値）



注１：主食用米等生産量は、平成28年産米の水稲収穫量（主食用）（「作物統計」農林水産省大臣官房統計部）である。

注２：６月末在庫量は、玄米の取扱数量が年間500トン以上の届出事業者の在庫量に10ａ以上の作付生産者の在庫量推計値を加えたものである。

２　全国の平成29／30年の需要見通し（推計値）

平成29／30年（平成29年７月から平成30年６月までの１年間）の全国の需要見通しについては、平成16年７月策定の基本指針において最近の米の消費量を踏まえて採用した手法により、平成８／９年（平成８年７月から平成９年６月までの１年間）から直近の平成28／29年までの全国の需要実績を用いてトレンド（回帰式）で算出すると、図２及び表２のとおりとなります。

図２　平成８／９年～平成28／29年の全国の需要実績を用いた算出方法

（単位：万トン）

年	x	需要量(y)	
8／9	1	943.8	
9／10	2	912.9	
10／11	3	907.3	
11／12	4	885.9	
12／13	5	911.5	
13／14	6	872.1	
14／15	7	894.7	
15／16	8	861.6	
16／17	9	865.4	
17／18	10	851.7	
18／19	11	837.5	
19／20	12	854.5	
20／21	13	823.6	
21／22	14	814.1	
22／23	15	820.0	
23／24	16	813.3	
24／25	17	781.1	
25／26	18	786.6	
26／27	19	782.5	
27／28	20	766.2	
28／29	21	754.9	（速報値）
29／30	22	751.9	（推計値）

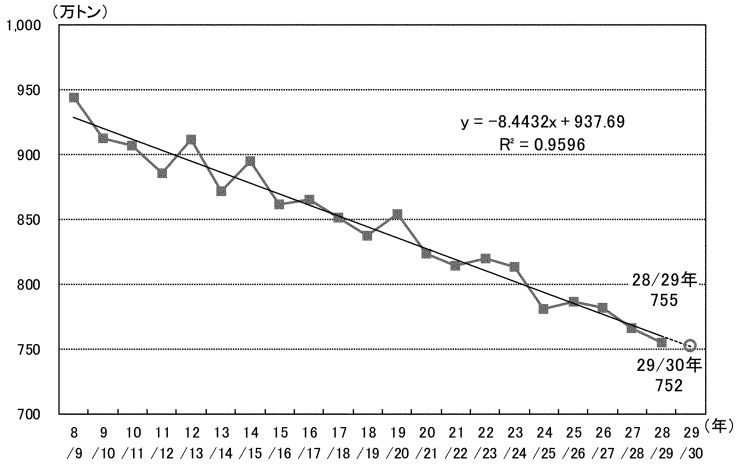


表２　平成29／30年の需要見通し（推計値）

平成29／30年	752万トン

３　平成29／30年の需給見通し

平成29／30年の需給見通しは、表３のとおりです。

⑴　供給量

①　平成29年６月末の民間在庫量（速報値）は、199万トンです。

②　平成29年産米の生産数量目標は、平成28年11月に変更した基本指針で設定した平成29年産米の全国の生産数量目標の735万トンです（平成29年産米の生産量は、作柄等により上下します。）。

③　この結果、平成29／30年の主食用米等の供給量の合計の見通しは、934万トンとなります。